

オーストラリアの楽園・ハミルトン島を旅して

三原皮膚科 三原 一郎

毎年行こうと決めた海外旅行は昨年で3回目です。1回目は、新婚旅行と称してイタリアへ。2回目はバリ島でした。それぞれ、とても楽しめた旅行でした。

3回目は、中村先生の旅行記に触発されて、オーストラリアへ行くことにしました。実は、いところが旅行社に勤めているので、彼にどこそこへ行きたいのだけど、とメールをすると、バック旅行のパンフレットが送られてきて、その中から適当なコースを選ぶだけです。忙しいこともあり、ほとんど内容も確かめず、こんなんでいいじゃないって感じて決めています。今回は、妻が海好きなこともあり、シドニー経由でハミルトン島をメインにしたツアーにしました。バックのツアーとはいっても飛行機やバスでの移動が団体というだけのことで、現地では全くの自由行動です。

ハミルトン島は、グレートバリアリーフの中央に位置し、南北4.5km、東西3km、面積750ha（東京ドーム160個分）の小さな島です。もともと無人島だったところに、ジェット機が離発着できる空港をつくり、ある企業がビーチとハーバーを整備したそうです。島全体がアミューズメントパークみたいなところですよ。有名なハート型のサンゴ礁「ハートリーフ」や世界で最も美しいといわれる「ホワイトヘブンビーチ」に近いのでオーストラリア人に人気のリゾートアイランドです。島内には宿泊施設が7タイプ存在しますが、今回は、奮発して世界トップ10にランキングされた5星のリゾート、クオリアに3泊しました。

さて、成田を夜発ち、2時間の時差のあるシドニーには早朝に着きました。そこから、飛行機を乗り継いで3時間ほどでハミルトン島で

す。空港では、われわれのためだけにクオリア専用車がお出迎え。5分ほどでクオリアに到着です。車を降りると、支配人が直々にお出迎え、丁寧な歓迎を受けました。エントランスから中に入るとホール正面には碧い海が広がり、さらにウェルカムシャンパンが用意され、楽園を実感です（写真1）。



写真1

クオリアにはパビリオンと呼ばれる別荘（ホテルでいう部屋）が点在しています。パビリオンには、海を一望できるリビング、ベットルール、バス付の洗面室、それに、シャワールーム、トイレ、さらには、リクライニングチェアを備えたプライベートプールまでもあり、豪華な別荘という感じの建物です（写真2）。パビリオンは広大な敷地内に点在しているため、移動にはゴルフ場でみかけるような電動のバギーを利用します。また、ホテル滞在中は、バギーを自由に使えるので島内の移動もすべてバギーです。因みに、島のなかではバスや輸送用のトラック以外普通のエンジン車はほとんど走っていません。バギーが当たり前の移動手段なのです。バギーにはウインカーやクラクションはなく、信号もありません。ホテルや公共の駐車場には、充電用の電源が至るところに設置され、



写真 2



写真 3

どこでもいつでも充電できる環境が整っています。近未来の町は、こんな風になるのかな～、なんて感じました（写真 3）。

とにかく、島全体が絵にかいたような楽園です。プール付の素敵な部屋や、海に面した美しいプールでのんびり過ごしつつ、いくつかのアクティビティーに参加しました。まずは、パラセーリングに挑戦です。パラセーリングとは、パラシュートにぶら下がり、モーターボートに引かれて上空へ舞い上がるというマリンスポーツです。セーリング前は、ちょっとビビっていたのですが、するすると空へ舞い上がっていく感覚は、何とも言えない心地良さ。空中では涼しげな風に吹かれながら、眼下に広がる美しいコーラルシーや島々を一望でき、爽快感この上ありません。途中スピードを落とし、海にお尻をジャボンというサービスもあり、とても気持ちのいい経験でした（写真 4）。

次いでクルーズ船で、グレートバリアリーフの無人島にある真っ白な砂浜、その名も「ホワイトヘブンビーチ」へ。欧米の旅行誌等で「地球上で最も美しい砂浜」として紹介されるところです。9 km 以上にも渡って続く美しい砂浜は、目もくらむほど真っ白！ 珊瑚のかけらや貝殻などが波によって細かく砕かれ堆積したシリカサンドでできたビーチは、驚くほど粒が細かくてサラサラ。歩くと、キュキュと音がします。澄んだ海が作り出すブルーのグラデーションと延々と続く白い砂浜、海に浮かぶヨットや水上飛行機、テレビなどで疑似体験した景色ではありませんが、本物はやはり息をのむ美しさです（写真 5）。

さて、旅の楽しみのひとつは食事です。オーストラリアといえば、オージービーフ！ 二人ともステーキ、とくにガツンとした厚切りの肉が大好きなので、出かける前から楽しみにして



写真 4



写真 5

いました。島にも評判のステーキハウスがある
とので、早速行ってみました。席はプール
サイドのバルコニー。注文はカウンターに並ん
で、サンプルをみながら肉の種類を選び、焼き
加減やソースの種類を指定します。肉の種類は
Tボーン、フィレ、サーロンインなど10種類ほ
どから選べます。また、ソースもいろんな種類
があるのですが、ガーリックバターをのせたT
ボーンステーキ450gをシェアすることにし
ました。和牛のような洗練された味ではありま
せんが、ガツンという肉らしい肉で、噛み応え
も十分で大満足でした。なお、ワインやビール
などのドリンク類も、カウンターで買う仕組み
です。日本でなかなか経験できないワイルドな
ステーキディナーでした（写真6）。



写真6

それからシドニーに戻り、オペラハウス（写
真7）やその周辺のベイエリアと新鮮なシー
フードを堪能し帰途につきました。さて、4回
目となる今年はどこに行きましょうか？



写真7

休日・平日夜間診療所

[3月当番医、患者数]

1日（夜）	南部 知子	8名	18日（夜）	和田 了	10名
2日（夜）	犬塚 博	8名	19日（夜）	五十嵐 裕	8名
3日（昼）	腰越 直也・渡部 隆二	37名	20日（昼）	佐久間和弘・上野 欣一	57名
（夜）	和田 了	17名	（夜）	中村 秀幸	10名
（小児科）	鈴木 準	20名	（小児科）	高久 巖	14名
4日（夜）	菊地 直人	6名	21日（夜）	藤吉 令	3名
5日（夜）	今立 明宏	6名	22日（夜）	高橋 由至	5名
6日（夜）	横山 喜恵	3名	23日（夜）	伊藤 茂彦	5名
7日（夜）	斎藤 元護	15名	24日（昼）	錦織 靖・斎藤 憲康	37名
8日（夜）	石田 博	8名	（夜）	鈴木 豊	5名
9日（夜）	佐藤 剛	14名	（小児科）	石原 融	18名
10日（昼）	南部 知子・大勝 康信	43名	25日（夜）	岡田 恒人	2名
（夜）	川上 篤	6名	26日（夜）	本田 学	3名
（小児科）	鈴木 晶子	23名	27日（夜）	石橋 学	5名
11日（夜）	佐久間豊明	8名	28日（夜）	須田 克幸	4名
12日（夜）	武田 徹	9名	29日（夜）	横山 喜恵	2名
13日（夜）	尾形 直人	9名	30日（夜）	乙黒 弘樹	6名
14日（夜）	阿部 寛政	5名	31日（昼）	五十嵐 裕・伊藤 享子	29名
15日（夜）	中目 千之	4名	（夜）	石橋 学	10名
16日（夜）	中里 純	12名	（小児科）	鈴木 晶子	18名
17日（昼）	須田 克幸・片桐 哲郎	33名			
（夜）	佐藤 邦彦	10名			
（小児科）	今立 明宏	18名			

